

# 全ての教室で取り組む (案) 算数・数学の学力定着・5つの指針

学力を育む  
授業をつくる！

とききたい

## <「といてみたい」「考えてみたい」～意欲を高める学習課題の提示>

○算数・数学の授業は、問題解決への興味・関心や必要感をもたせることが大切です。生活場面に即した問題や知的好奇心に訴える問題など解きたくなる工夫をするとともに、既習事項と関連させながら解決への見通しをもたせましょう。一人一人に課題をしっかりとつかませることが問題解決への意欲につながります。

つたえたい

## <「説明したい」「聞いてみたい」～考えを広め深める学び合いの工夫>

○展開の場面では、考えを広めたり深めたりする言語活動の充実が大切です。自力解決の場面では自分の考えをノートに書かせて整理させるとともに、集団解決の場面では式や図、表などを使って数学的に自分の考えを説明させることによって、学習内容の確かな定着を図りましょう。互いの考えのよさに気付かせる学び合いの場をつくることで、学びの質が高まります。

いかしたい

## <「わかった」「できるようになった」～ねらいに即した適用問題の設定>

○本時のねらいが達成できたか、終末では子どもと一緒に確認することが大切です。適用問題により本時のねらいとした学習内容が身に付いたか確認し、個に応じた指導を行うことで、学習したことが確かに「わかった」という実感をもたせましょう。本時の学習について、ねらいに立ち返って振り返らせることで、学んだことをしっかりと定着させることができます。

学力を定着させる  
環境をつくる！

## <算数・数学科経営の質を高める>

○算数・数学の指導の在り方について、4月に全職員で共通理解を図ることが大切です。その学年で身に付けさせるべき基礎・基本と指導の系統性を確認し、授業づくりや習熟を図る学習などに全校体制で取り組みましょう。子どもの実態を踏まえた具体的な目標と手立てを設定し、全ての教室で実践することで、学習したことがしっかりと積み上げられていきます。

## <家庭学習の質を高める>

○家庭学習への意欲を高めるためには、授業と関連した課題を工夫し、取り組んだことを授業の中に生かし、認めることが大切です。また、集中して取り組める時間と場を確保するため、スマホやテレビなどとのつきあい方を考えさせるなど、家庭と協力して落ち着いて学習できる環境をつくりましょう。自律的な生活習慣を確立することが、学力向上の基盤となります。